

## 1. 調査の目的

- D P C導入前後における入院患者の総体について「看護の必要度」の変化を評価するとともに、各病院毎の変化を把握するために、共通評価票（看護必要度）を用いて調査を実施する。看護必要度に変化があった場合に、その理由について検討し、D P C導入に伴い在院日数が短縮してくる中で、手間のかかる患者の受け入れが適切に行われているかを検証する。

## 2. 班構成

- ◎小島恭子(委員：北里大学病院看護部長)
- 熊本一郎(委員：鹿児島大学医学部教授)
- 嶋森好子(京都大学医学部附属病院看護部長)
- 田久浩志(中部学院大学健康福祉学科教授)

## 3. 調査方法

### (1) 導入前後の看護の必要度の変化に係る調査

- 対象：鹿児島大学医学部附属病院、北里大学病院
- D P C導入前後の看護業務量の変化について、入院患者総体について比較分析し、また、患者のタイプ別に比較分析する。(看護業務量調査：鹿児島大学医学部附属病院；看護度、北里大学病院；KNS)
- D P C導入前後の看護業務量の変化があった場合にその理由について検討し、D P C導入に伴い在院日数が短縮してくる中で、手間のかかる患者の受け入れが適切に行われているかを検証する。

### (2) 重症度に係る評価及び看護必要度調査票を用いた調査

- 対象：京都大学医学部附属病院、名古屋大学医学部附属病院、岐阜大学医学部附属病院、北里大学病院、東海大学病院、竹田総合病院、聖隷浜松病院等  
\* 6病院程度(内訳 国立大学法人病院2～3、私立大学病院2～3、民間病院2程度)
- 平成16年10月に、平成15年基礎患者調査結果において患者数の多かった診断群分類上位10程度に該当する患者を対象として、1入院期間における患者の状態について重症度に係る評価、看護必要度調査票により調査を実施する。
- 診断群分類、病院別に看護必要度得点の分布について分析する。また、分析結果をもとに、いわゆる、手のかかる患者数、1入院期間中の看護に係る総時間数など、D P C導入にともなう看護必要度の変化をモニターする指標を得る。

## 4. 調査スケジュール

平成16年	8月	調査内容及び調査方法の詳細を検討(班会議)
		調査対象病院の決定
	9～11月	調査(1)の実施
	10月上旬	調査(2)説明会の開催
	11月	調査(2)調査実施
平成17年	1月	分析